

巻 頭 言

ミヒャエル・エンデ氏は映画化もされた「モモ」や「はてしない物語（ネバーエンディング・ストーリー）」で有名な小説家。彼の作品の一つに「自由の牢獄」があります。この作品は、自由に出ていくことができる111の扉に囲まれた不思議な牢獄に閉じ込められた主人公が、様々なことを考え悩んだあげく、結局扉を選べずに外へ出ていけないという話。

インターネットや携帯電話が普及しだした頃から情報化社会という言葉が盛んに使われるようになりましたが、現代の社会は「情報過剰社会」であるとも言われています。「人は情報量が多いと興味を強く示すけれども、その情報量をすべてインプットして、分析し、比較するのは困難で、いざ決断する際になると迷って動けなくなる」という実験データがあります。また、膨大な情報があふれるインターネット空間には、誤った情報や既に古くなってしまった情報もあり、注意が必要です。

この「進路のしおり」は、進路に関する膨大な情報の中から、皆さんに合うように本校の教職員が必要な情報を精選して編集しています。皆さんにとって最も頼れる「進路決定への旅のガイドブック」として、大いに活用してください。

なお、この「しおり」は1ページ目から順を追って読む必要はありません。まずは、必要のところ、興味あるところから読んでください。併せて、余裕のある時にそれ以外のところに目を通すことも勧めます。何かを見たり考えたりする時に、自分の興味・関心等をもとに焦点化するばかりでなく全体を俯瞰的に見たり考えたりすること、また、自分とは異なる進路希望を持つ人がどのような取組をするのか等を知ることが、皆さんにとってとても良いことだと考えています。

最後に再び「自由の牢獄」について。主人公が閉じ込められた牢獄は「ひとつの扉を開けば、他の扉は永遠に閉じられ、やり直しはきかない」空間でした。主人公は手足をすくませ、結局どの扉も選ぶことができませんでした。

進路選択ではやり直しも可能です。ただ、時間には限りがあります。躊躇し過ぎたり、「またあとで」などと考えていると、時間切れとなる場合もあります。まずは関心の持てるページを今すぐ開いてみてください。あなたの「旅」は始まっています。

校 長 塩川 拓司